柘植地域
まちづくりだより
第195号

発行　柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
（柘植地区市民センター内）
〒五一九-一四〇二
電話 四五-八八八〇　FAX 四五-八八三

発行日　二〇一七(平成二十九)年八月十五日(火)

柘植地域内12か所にカラー版設置中です

どうする交通問題

柘植駅を核とする公共交通のあり方検討委員会

↑第３部パネルディスカッションでは、会場参加者全員が意見交換をしました。

←山下典子市議会議員も参加しました。

８月６日（日）午後、市民センターで柘植地域の交通問題について考え合うシンポジウムを開催しました。

私たちの地域には、他の地域にはないＪＲ路線（草津・関西線）と「柘植駅」、加えて名阪国道と「道の駅いが」という交通インフラや施設があり、これまで多大な恩恵を受けてきました。

しかし、人口減少や高齢化の影響もあり、地域としてその利点を活かしきれているとは言えない実情があります。特に行政バスについては、年々利用者数も減少し、経営的には現状のままでの存続は厳しい状況です。

今回の催しでは、３部構成で多角的に交通問題を考えました。

第１部では、柘植駅前中村屋の北川美晃さんによる「**ふるさとへの思い～鉄道・駅を話題にして**」と題する講演をいただきました。

ご自身が幼い頃に味わった身近な存在としての柘植駅や鉄道についての思いを語っていただくとともに、ピアノ演奏も交えモーツァルトや滝廉太郎の時代と交通を関連付けてお話しいただきました。

第２部では、倉部区在住で地域の歴史を研究しておられる森川潔さんに「**３天下人ゆかりの地としての柘植地域の魅力**」と題して講演をしていただきました。柘植駅に降り立った方々に柘植の魅力を味わってもらうしくみとして、モデルコースづくりを進める素材を示していただきました。

第３部では、４人のパネリスト（ジベー上部の写真の右から北川美晃さん、藤井明和さん、松山宗達さん、堀井信雄さん）がそれぞれの立場から、これまでの取り組み成果や駅前を中心にしたハード面の整備構想、福祉面での交通網構想などについて意見を出し合い、同時に会場に集まった20人の参加者からの意見を交えることで、今後の活動の原動力とすることができました。

柘植地域俳句コーナー

蝋が
ひぐらしを呼ぶ
堂の裏

岡島　千秋

柘植駅発着で

歴史探訪フィールドワーク

先着１５名、参加者募集

○日時　１０月２２日（日）
　　午前９時～午後３時
○行程　集合午前９時（柘植駅前）
　柘植駅発
　↓　①徳永寺
　↓　②風の森神社跡
　↓　　余野公園（昼食）
　↓　③壬申の乱合戦場付近
　柘植駅着
○参加費　傷害保険代のみ
　※詳細は別紙チラシを

柘植駅を核とする公共交通のあり方検討委員会では、滋賀県草津線複線化促進期成同盟会等から支援を受け、今年度、地域内に多数ある歴史遺産の中から、森川潔さんらの推奨されるコース（左表参照）を草津線を活用した柘植駅発着モデルコースとして設定し他地域へ紹介していくことにしています。

将来は柘植駅発着のモデルコースを増やし、ウォーキング・サイクリングなどにより柘植地域の魅力に触れてもらえることをめざしています。

市民センターでの「住民票」等の即時交付は8月末で終了します

伊賀市内の各地区市民センターでの「証明書発行業務」は９月から「取次業務」に変更となります。

コンビニ交付も一つの選択肢に…

８月８日（火）午前、市民センターで、「**証明書発行業務の変更**」についての住民説明会を開催しました。同時に、全国的に展開されているコンビニでの証明書発行の拡大をめざしたマイナンバーカード申請手続き講習会（写真）も行いました。

前半、市の職員より、平成16年から上野地域でスタートしたという「**市民センターでの即時発行業務**」について、年数がたつとともに機器の維持更新に莫大な費用がかかることやほかの市の実情などと比べ交付場所が多すぎるということなど、これ以上、センターへの専用機器設置継続は不可能であることが説明されました。

この説明会は市行政との懇談の中で、人口減少・財政難と情報社会の進展の社会のもとで市が率先してマイナンバーカードによる「**コンビニ交付**」を推進するとの方針をもっているという話を通じ、市とまち協が合同で開催したものです。

会場からは、市への疑問や意見が出されました。これからも地域と行政を結ぶ役割をまち協ならびにセンターが果たしていきたいと思います。

新型機器を活かし、チームでがんばろう！ 獣害対策

小林地内に獣害対策檻（おり）設置

生活環境部会

８月９日（水）午後、三重県農業研究所と伊賀市農林振興課鳥獣害対策係の協力により、新型の捕獲檻の組み立てと設置を行いました。

最初に捕獲檻の組み方の説明を受け、４～５人の手で５分程度で組み上げることができるようになりました。またセンサーの感度を調整して、実際に檻を動かしてみて、そのしくみを学びました。

その後、小林地内に２か所、猟友会メンバーと小林区民をベースにしたプロジェクトチームの手で檻を設置し、今後の餌付けなど檻の活用方法について共通理解を図りました。

オリに入りこんだ動物の「大きさ」にセンサーが反応して扉が閉まる完全自立型の装置です。

忍者トレイルラン！ 柘植地域でも盛り上げよう！

８月５日（土）午前、旧まるばしら保育所（丸柱地域まちづくり協議会）にて、忍者の「心・技・体」体験などをメインに据えた地方創生のインバウンド事業の記者会見があり、柘植地域からも来賓として参加しました。

日本遺産に認定された「**忍びの里 伊賀**」に外国人旅行客を呼び込み、今年11月に開催される忍者トレイルランへの参加や丸柱地域での農家民泊、農作業、作陶体験を通じて、地域の魅力を知ってもらおうという取り組みで、柘植地域ではスポーツ実行委員会を中心にボランティアを募集し、エイドステーション支援や走者誘導に協力する予定です。柘植地域の魅力発信の好機ととらえています。

スポーツ実行委員会

跡地利活用、一歩ずつ…

前号でもお知らせしましたように、旧柘植保育園跡地は、８月10日より内装工事に入っています。

それに先立つ８月８日（火）午後、以前に保育園で使っていた備品のロッカーなどを放課後児童クラブ「スマイルキッズ」で使用するために移動させました。

～区長部会の紹介～
情報伝達の結節点として

自治基本条例の下、さまざまな情報や依頼事項が伊賀市行政の伊賀支所や各課から流れてきます。

区長部会は毎月中旬に区長12名とまち協事務局が集まり、伊賀市行政からの情報（その他の情報も含む）、柘植地域全体に関わる情報について確認しています。それを各区に持ち帰り、組や班に印刷物や情報を伝達しています。（**「まちづくりに関する基本協定書」**に基づいた役割です。）

まち協運営のあり方も含め、区長部会のあり方についても、よりよい形となるよう常に見直しております。

★☆★事務局だより☆★☆

▼お盆は日頃会えない方々との交流の機会もあり、いつもと違って心が癒されるひとときもあったのではないでしょうか。▼８月７日（月）、台風５号の到来に備えた伊賀市配備体制により、柘植地区市民センターを夕方の午後６時から深夜午前０時まで開館し、万一に備えました。▼結果的には特に対応すべき問題も生じることなく、台風が過ぎ去ったわけですが、いくつか課題も明らかにすることができました。▼柘植地域内各区との情報共有、伊賀支所との情報共有、住民避難所としての日常の準備などを改めて検討しておくべき課題であると考えています。▼３ページ下に掲載の「忍びの里 伊賀」創生プロジェクトについて、下枠に参考資料を掲載しました。当日はランナーが柘植地域を駆けますので、まち協として支援していきます。▼加えて、10月１日（日）に、京都大学オリエンテーリング部主催の大会が、霊山山麓にて計画されています。柘植小学校体育館が受付となることもありまち協としても支援をしています。▼最後に…、各部会や各実行委員会の活動は『まちづくりだより』等を通じて、随時、紹介しておりますが、特別部会である区長部会の活動はあまり紹介されていませんので、今回、少しですが４ページ上に紹介させていただきました。

（西田方計）

まちづくり協議会に関する情報の多くは、ホームページ（ウェブページ）で確認していただけます。
柘植地域まちづくり協議会で検索していただくか、次のアドレスを入力してください。

http://tsuge.jpn.org

【「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト発足会】 伊賀上野ケーブルテレビのホームページより引用しました。

伊賀市・三重県・三重大学・日本航空株式会社の“産学官民”による「忍びの里 伊賀」創生プロジェクトの発足会が８月５日（土）、旧まるばしら保育所で開かれました。

「忍びの里 伊賀」創生プロジェクトは「忍びの心・技・体」を体験できるプログラムを、国内をはじめ世界中に届けようとするものです。

日本航空は、2015年９月に地域の魅力を地元と一緒になって開発・PRする「新ジャパンプロジェクト」を立ち上げ、そのプロジェクトの一環として三重県とは同じ年の１２月、「食」と「観光」に関する協定を締結。今回、三重県での第2弾として「忍びの里 伊賀」創生プロジェクトが発足されることになりました。

伊賀市では「忍の心と生活・技術を知る本物の旅」をテーマに１１月３日と４日大山田温泉さるびのを発着点に「**第1回 NINJA TRAIL RUNNING RACE**」が開催されます。なお、今後は伊賀焼の里である丸柱地域で欧米の富裕層をメインターゲットにした体験プログラムも検討していくということです。